

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

我が国の教育課程において、特別活動は、外国語活動・総合的な学習の時間と同様に教科ではなく「教科外の領域」に属している。しかし、特別活動は「①学級活動、②児童会活動、③クラブ活動、④学校行事」への参加を通して、子どもの個性や人間関係の発達を促す極めて重要な教育活動である。本講座では、特別活動の意義、目標、内容、特別活動と教科・道徳・「総合」との関連などに重点を置いた指導を進めるが、特別活動の指導計画の作成・内容の取り扱いも取り上げながら教育現場で通用する実践力の育成を図る。

特に、国立教育政策研究所の研究指定校であった公立学校における実務経験をもとに、特別活動と道徳、多様な教科・教科外の領域の学習との「関連的指導」、「地域との連携」など、小学校や中学校の教育現場で実際に実施されている具体的な実践例を通じた学習も実施したい。また、これらの学習の後、学級活動に関する「学習指導案」の作成（指導観・本時の展開）も計画している。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	特別活動の意義・目的・内容
第 3 回	特別活動の歴史・沿革
第 4 回	学習指導要領
第 5 回	学級活動（目標・内容）
第 6 回	学級活動（具体的指導例）
第 7 回	生徒会活動
第 8 回	クラブ活動
第 9 回	学校行事①（目標・内容）
第 10 回	学校行事②（具体的指導例）
第 11 回	特別活動の年間指導計画・全体計画
第 12 回	特別活動とクロスカリキュラム・「総合」
第 13 回	特別活動の学習指導案とその基本的考え方（学校現場で活用されている「指導観」の作成法）
第 14 回	特別活動の学習指導案作成（学校現場で活用されている「本時の展開」の作成法）
第 15 回	学習のまとめ
第 16 回	筆記試験

到達目標

1. 特別活動の目的、意義、内容、沿革などに関する基本的な考え方を理解し説明している（知識・技能）。
2. 小中学校の現状や課題をふまえながら、小論文や口頭で表現している（思考・判断・表現）。
3. 特別活動に関するグループ討議や発表に進んで参加しようとする（主体的学習態度）。

履修上の注意

単位修得のためには、最低でも 10 回の完全な出席（無遅刻・無早退であること）が不可欠となる。また、授業では、グループ協議・発表等を重視する。筆記試験（第 16 回目）は、「小論文」形式で出題する。

予習・復習

授業内容の深い理解、予習・復習のため授業時間外に「課題」を作成し提出する。

評価方法

学期末試験 70%、授業中に課す簡単な課題への回答 30%、レポート 10%

テキスト

テキストは使用せず、毎回の講義で必要な資料を配布する。